

IERS フォーラム 『ICU入学者選抜方法の教育・心理学的基盤』

IERS Forum: Educational and Psychological Bases for ICU Admissions Policies

講師：原 一雄 Ph. D. (国際基督教大学名誉教授・日本心理学会名誉会員)

日時：2013年9月19日 午前11時～12時40分

場所：東ヶ崎潔記念館ダイアログハウス国際会議場

1. 講演の趣旨と経過

本フォーラムは教養学部の授業 PSY104『心理測定と評価』の一部として行われ、直前の講義で強調した「心理測定」の基盤とする方法論の理解と、「検査(テスト)」の3要件(妥当性・信頼性・実用性)を単なる統計的指標や世俗的評価に頼ることなく、飽くまでも具体的な教育現場において如何に検証することが可能か、身近な課題と自分自身の経験を通して受講者に考えさせることを目的とした。

そこで、本学設立の理念・基本的教育方針・実践的形態としての教養教育プログラムの意義を再確認し、そこに参加する学生を多様な文化的背景を持つ入学志願者の中から如何なる方法で選抜してきたのか過去の事例を紹介し、現在の学園生活を顧みるに資する視座を提供すると共に、将来のキャリアの中で少しでも多く活用されることを期待した。

そのために、受講者へは事前に関連資料を配布して予習を促し、また、時間不足で触れられなかった課題については講演後に補足プリントで主要な問題点の検討を要請した。

2. 講演の要旨

1) 本学創設に関わる前史と終戦直後の日米における建設計画ならびに募金活動の経緯を述べ、最終案となった大学院3研究科(教育・行政・社会福祉)および教養学部の目標と、当時文部省から設立認可を受けるに当り公約した基本的教育方針12カ条を再吟味した。

2) 教養教育を受けるに必須な素質とは何かを問うために、先ず心理学史上での「知能」概念の変移を例に挙げ、他校が重視する所謂「学力」(学習到達度)と本学が専ら査定しようと試みた「適性」(潜在的学習能力)との相違点や操作的定義について論じた。

3) 入学者選抜に用いる諸資料(高校内申書、入学願書記載事項、筆記試験、面接試験、外部機関による学力検査等)それぞれの果たす役割について検討し、志願者を可能な限り多角的に評価するために本学で独自に開発した記録用紙(プロフィール)を例示した。

4) 知的発達と同時に全人格的成長を促すために重視した学園生活の一端を物語る具体的事例(新入生リトリート・少数人数討議形式授業・講義と実験実習の併用・大学礼拝・コンボケーション・教職員学生協働キャンパスクリーニング等)をスライド画面で紹介した。

5) 入試問題の妥当性を検証するための追跡研究に関しては、学期後半で「相関係数」の学習を終えてから再度統計的精査を行うことを示唆し、資料を提供するに留めた。

[配布資料]

「国際基督教大学設置要項」(1952)

JICUF “New Leaders for the New Japan” Ch. V (1949)

原 一雄「大学教育と入学者選抜方法」『教育研究28』86-100 (1986)

MIT教授法委員会編 “You and Your Students” (『大学教授心得帳』) 1-2 (1952)

入学者選抜判定用記録用紙：1次試験用・2次試験用 (1965年版)

補足プリント (資料分析に用いた略記号の解説, 受講生宛自己点検質問項目等)

原 一雄

HARA, Kazuo